

# 土木学会デザイン賞の意義と課題

福島 秀哉<sup>1</sup>・福井 恒明<sup>2</sup>・真田 純子<sup>3</sup>・崎谷 浩一郎<sup>4</sup>

<sup>1</sup>正会員 修士(工) 東京大学大学院助教 工学系研究科社会基盤学専攻  
(〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1, E-mail:fukushima@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

<sup>2</sup>正会員 博士(工) 法政大学准教授 デザイン工学部都市環境デザイン工学科  
(〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

<sup>3</sup>正会員 博士(工) 徳島大学大学院助教 ソシオテクノサイエンス研究部  
(〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1, E-mail:sanajun@ce.tokushima-u.ac.jp)

<sup>4</sup>正会員 修士(工) 有限会社eau (〒113-0033 東京都文京区本郷6-16-3, E-mail:saki@eau-a.co.jp)

土木学会デザイン賞は、土木のデザインに従事する個人を表彰対象とした日本で初めての授賞制度であり、その活動の成果については、一定の評価が下されている。その一方で、創設から11年が経過し、デザイン賞をとりまく社会情勢の変化などから、期待される役割の変化や新たな課題が指摘されてきている。本稿ではデザイン賞の実績と役割について確認し、今後に向けた課題とその解決の方向性について論ずる。

**キーワード:** デザイン賞, 授賞制度

## 1. はじめに

土木学会デザイン賞（正式名称：土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞、以下デザイン賞）は、土木のデザインに従事する個人を表彰対象とした日本で初めての授賞制度である。土木学会景観・デザイン委員会（以下景観・デザイン委員会）の下に設けられたデザイン賞選考小委員会（以下選考小委員会）が賞の運営にあたり2001年から2011年までの11回の開催で327の応募総数に対して、109作品を表彰してきた（その後も継続）。

賞設立時の理念である、土木業界へのデザインの意義の周知、優れた設計者への評価に加え、土木デザインへの新たな示唆など、今までの活動の成果による賞の社会的意義については、一定の評価が下されている。

しかしその一方で、創設から11年が経過し、デザイン賞をとりまく社会情勢の変化等により、デザイン賞に期待される役割が変化してきており、さらに応募者数の減少など様々な課題が浮彫りになってきている。

そこで、景観・デザイン委員会の下に2012年7月にデザイン賞検討ワーキング（以下検討ワーキング）を設置し、これまでデザイン賞が果たしてきた意義について整理するとともに、今後デザイン賞が果たすべき役割、そのための具体的な改善案について、関係各位と意見交換を行いながら検討を行うこととした。

本稿の執筆者は検討ワーキングのメンバーであり、本稿ではデザイン賞の実績と役割について確認し、今後に向けた課題とその解決の方向性について論ずる。

## 2. デザイン賞の概要

### (1) 賞設立の経緯<sup>1)</sup>

1997年にデザイン賞の運営主体である土木学会景観・デザイン委員会が創設された（初代委員長：中村良夫）。同委員会の活動の柱の一つとして、設計者の顔が見えなかった日本の土木業界において、技術者やデザイナーがその個人としての実績を作り、設計の質によって競争を行える土壌づくりが挙げられた。その一環として授賞制度の構築を目指し、2000年9月に景観・デザイン賞授賞制度準備小委員会（田村幸久座長、以下準備委員会）が立ち上げられ、他分野のデザインに関する表彰制度を参考にしながら賞の骨格に関する議論が進められた。翌2001年度に第1回募集が行われ、以来毎年開催され現在に至っている。

### (2) 賞の概要

#### a) 趣旨・顕彰対象・対象作品など

デザイン賞の募集要項から抜粋すると<sup>2)</sup>、景観・デザイン委員会は、「土木の理想は、人々の生活を支えるとともに、美しい都市や国土を育むこと」にあるとし、その実現に向け、デザイン賞を通じて「優れた作品を通して土木デザインの重要性を社会に問うとともに才能ある設計者やデザイナーに光を当て、これらの努力（計画から実現までの長い年月と多くの人の弛まぬ努力）が社会の公汎な支持を得ることに寄与」することを活動の目標の一つとして挙げている。

以上の背景を受け、デザイン賞では「道路・街路・街並み・広場・公園・駅舎・河川・海岸・港湾・空港等の公共空間・公共施設や、橋梁・堰堤・水門・閘門・堤防等の構造物等、実現した作品」で、「竣工後2年以上経過しているもの」を応募条件とし、その中で「土木のデザインによって公共空間や公共施設の質が向上した作品、およびその作品の実現に関わった人々の中で、大きく貢献した人物（主な関係者）ならびにそれをサポートした組織（主な関係組織）」について表彰するとともに広く一般に公開している<sup>3)</sup>。

「竣工後2年以上経過しているもの」という条件は、長寿命、耐久性、維持管理体制の構築・継続、時間の中での風景との調和など、土木構造物として満たすべき要件を考慮し、完成直後ではなく、一定期間経過してある程度評価が定まった状態で審査を行うという趣旨から設けており、他の表彰制度と比べた際の大きな特徴の一つであると考えられる。

### b) 選考体制と選考方法

景観・デザイン委員会では、デザイン賞の授賞対象の選考をすすめるに当たって、その下に選考小委員会を設置している。選考小委員会は、選考委員と幹事会から構成されている。選考委員は、デザイン賞応募作品の分野の広さから、景観全般、構造・橋梁、河川、都市、工業デザイン、ランドスケープ等、様々な分野の専門家により構成されている（表-1参照）。また、景観やデザイ

ンに携わる大学研究者や民間の若手技術者による幹事会により選考の運営がなされている。

選考は、規定審査、一次選考会、現地調査、二次選考会の順で行われる。規定審査では幹事が応募規定違反の有無を審査するための原案を作成し、一次審査時に選考委員による承認を得る。デザイン賞の大きな特徴の一つに選考委員による現地調査（実見審査）があるが、一次選考では規定審査を通過した作品について応募書類による審査を行い、優秀賞受賞候補作品の選定と、実見の分担を決定する。各選考委員が現地調査を行った後、二次選考会を開催し、各実見担当選考委員の報告、審議を行い、最優秀賞、優秀賞などの選定を行う。

なお全ての選考過程において、作品に関与している選考委員は当該作品の審議には参加しないこととしている。

### c) 結果の公表

選考結果の公表については、学会ウェブサイトへの掲載、授賞式の開催、土木学会誌その他各誌への掲載等を行ってきた。また、授賞式では、受賞者のプレゼンテーションの実施、選考委員からの講評などを行っている。また、毎年度授賞作品を作品選集としてまとめ、受賞者及び授賞式参加者に配布し、希望者に販売している。

### (3) これまでの主な変更点

#### a) 「主な関係組織」の追加

第1回目は困難を承知しつつも個人を特定して「主な

表-1 歴代選考委員（参考文献4）～14）により筆者作成

年度	選考委員（所属／専門）	年度	選考委員（所属／専門）
2001	◎篠原 修（東京大学／景観全般）	2007	◎天野光一（日本大学／景観論、公共施設デザイン）
	大熊 孝（新潟大学／河川）		江川直樹（関西大学／建築環境デザイン（建築・都市））
	北村真一（山梨大学／都市・河川）		小野寺康（小野寺康都市設計事務所／土木・都市デザイン、景観デザイン）
	榊原和彦（大阪産業大学／都市デザイン）		佐々木正雄（アトリエ74建築都市計画研究所／都市計画・都市デザイン）
	佐々木葉（日本福祉大学／都市・橋梁）		島谷幸宏（九州大学／河川工学・河川環境）
	杉山和雄（千葉大学／造形）		田中一雄（GKデザイン機構／環境デザイン）
田村幸久（大日本コンサルタント／橋梁）	西川和廣（国土技術政策総合研究所／橋梁工学、橋梁マネジメント）		
2002	◎杉山和雄（千葉大学／土木造形）	2008	◎天野光一（日本大学／景観論、公共施設デザイン）
	大熊 孝（新潟大学／河川）		江川直樹（関西大学／建築環境デザイン（建築・都市））
	加藤 源（日本都市総合研究所／都市デザイン）		小野寺康（小野寺康都市設計事務所／土木・都市デザイン、景観デザイン）
	齋藤 潮（東京工業大学／景観論）		小出和郎（都市環境研究所／都市景観・都市デザイン・歴史環境）
	澤木昌典（大阪大学／環境デザイン）		田中一雄（GKデザイン機構／環境デザイン）
	田村幸久（大日本コンサルタント／橋梁、道路）		西川和廣（国土技術政策総合研究所／橋梁工学、橋梁マネジメント）
2003	◎杉山和雄（千葉大学／土木造形）	2009	◎島谷幸宏（九州大学／河川工学、河川環境）
	石川忠晴（東京工業大学／環境水理）		猪熊康夫（中日本高速道路／橋梁、道路、高速道路）
	石橋忠良（東日本旅客鉄道／構造、施工）		桑子敏雄（東京工業大学／哲学、社会的合意形成、プロジェクト・マネジメント）
	加藤 源（日本都市総合研究所／都市デザイン）		小出和郎（都市環境研究所／都市景観・都市デザイン・歴史環境）
	川崎雅史（京都大学／景観デザイン）		田中一雄（GKデザイン機構／環境デザイン）
	齋藤 潮（東京工業大学／景観論）		宮城俊作（奈良女子大学、PLACEMEDIA／ランドスケープデザイン、都市デザイン）
内藤 廣（東京大学／建築デザイン・景観デザイン）	吉村伸一（吉村伸一流域計画室／河川の計画設計（自然復元・景観デザイン））		
2004	◎内藤 廣（東京大学／建築デザイン・景観デザイン）	2010	◎島谷幸宏（九州大学／河川工学、河川環境）
	石川忠晴（東京工業大学／環境水理）		猪熊康夫（中日本高速道路／橋梁、道路、高速道路）
	石橋忠良（東日本旅客鉄道／構造、施工）		桑子敏雄（東京工業大学／哲学、社会的合意形成、プロジェクト・マネジメント）
	加藤 源（日本都市総合研究所／都市デザイン）		小出和郎（都市環境研究所／都市景観・都市デザイン・歴史環境）
	佐々木葉（早稲田大学／景観論・デザイン論）		南雲勝志（ナグモデザイン事務所／プロダクトデザイン）
	樋口明彦（九州大学／景観デザイン、アーバンデザイン）		宮城俊作（奈良女子大学、PLACEMEDIA／ランドスケープデザイン、都市デザイン）
宮沢 功（GK設計／インダストリアルデザイン・景観デザイン）	吉村伸一（吉村伸一流域計画室／河川の計画設計（自然復元・景観デザイン））		
2005	◎内藤 廣（東京大学／建築デザイン・景観デザイン）	2011	◎北村真一（山梨大学／景観工学、地域都市計画）
	佐々木正雄（アトリエ74建築都市計画研究所／都市計画・都市デザイン）		猪熊康夫（中日本高速道路／橋梁、道路、高速道路）
	佐々木葉（早稲田大学／景観論・デザイン論）		卯月盛夫（早稲田大学、参加のデザイン研究所／建築設計、都市デザイン、参加のまちづくり）
	島谷幸宏（九州大学／河川工学・河川環境）		桑子敏雄（東京工業大学／哲学、社会的合意形成、プロジェクト・マネジメント）
	樋口明彦（九州大学／景観デザイン、アーバンデザイン）		南雲勝志（ナグモデザイン事務所／プロダクトデザイン）
	三浦健也（長大／橋梁デザイン・構造設計）		西村 浩（ワークヴィジョンズ／建築、土木デザイン、まちづくり）
宮沢 功（GK設計／インダストリアルデザイン・景観デザイン）	宮城俊作（奈良女子大学、PLACEMEDIA／ランドスケープデザイン、都市デザイン）		
2006	◎天野光一（日本大学／景観論、公共施設デザイン）	2012	◎北村真一（山梨大学／景観工学、地域都市計画）
	江川直樹（関西大学／建築環境デザイン（建築・都市））		花木洋子（エイト日本技術開発／道路、橋梁の計画、設計）
	小野寺康（小野寺康都市設計事務所／土木・都市デザイン、景観デザイン）		高見公雄（法政大学・日本都市総合研究所／都市計画、都市デザイン）
	佐々木正雄（アトリエ74建築都市計画研究所／都市計画・都市デザイン）		戸田知佐（オンサイト計画設計事務所／ランドスケープアーキテクチャ）
	島谷幸宏（九州大学／河川工学・河川環境）		南雲勝志（ナグモデザイン事務所／プロダクトデザイン）
	西川和廣（国土技術政策総合研究所／橋梁工学、橋梁マネジメント）		西村 浩（ワークヴィジョンズ／建築、土木デザイン、まちづくり）
樋口明彦（九州大学／景観デザイン、アーバンデザイン）	山道省三（NPO法人全国水環境交流会／国土管理への住民参加）		
宮沢 功（GK設計／インダストリアルデザイン・景観デザイン）			

関係者」に記載することとした結果、個人名を出すことに発注者が難色を示し、応募を断念した例が複数あったことが分かった。そこで第3回より「主な関係組織」欄を設けた。個人へ光を当てるという当初の目的を後退させるのではないかという観点から、この措置に関して様々な議論があったが、現在までこの形で運営されている。

#### b) 特別賞の設立

第2回（2002年度）の最優秀賞に選定された「日光宇都宮道路」が、応募時において既に高い評価を受けた作品であったことから、通常とは別の形で表彰するべきではなかったかという議論が、景観・デザイン委員会でなされた<sup>15)</sup>。これを受け、翌年から既に社会的に高い評価を受けている先駆的な作品に関しては特別賞を授与することが確認された。第3回（2003年度）に「太田川基町護岸」が表彰されて以降、同様の理由により2件の作品（「横浜市における一連の都市デザイン」第5回（2005年度）、「八幡堀の修景と保全」第10回（2010年度））に特別賞が与えられている。

#### c) 2006年度の変更点（先行応募制度・作品推薦など）

第6回（2006年度）には、天野光一選考委員長のもとで、以下3点の変更をしている<sup>16)</sup>。

- ・ 作品推薦の随時受付
- ・ 竣工後2年未満の作品の先行応募受付
- ・ 全ての選外作品への「選外となった理由の送付」

先行応募については、特に発注者側の担当者の異動などの理由から、竣工後2年での申込が困難であった作品の応募を促すという意図から設置された。

#### d) 奨励賞の創設

第8回（2008年度）に奨励賞が創設された。創設時の奨励賞の位置付けとしては、「土木デザイン（周辺や付属物を含めたトータルなデザイン）」という点では課題はあるが、作品単体としては一定レベルに達していることから作品関係者を奨励するとともに、同様の作品分野のデザインレベルの向上に寄与することを期待して授与する<sup>17)</sup>。同第8回（2008年度）は、以上の理由により、優秀賞に次ぐ作品として2件が選定された。

翌第9回（2009年度）には、奨励賞の位置付けをより広く解釈し、デザインの難しい土木分野に対する積極的な取り組みへの奨励という意味で、砂防分野の「地獄平砂防えん堤」が選定されている<sup>18)</sup>。

第10回では、奨励賞の位置付けについてさらに言及されており、「優秀賞の次点として位置づける群」と「新しい分野でまだ評価軸が十分に定まっていないが今後の景観整備の方向性として奨励できる群」の2つに大別できるとしている<sup>19)</sup>。同第10回（2010年度）は3件、第11回（2011年度）は2件が選定された。

#### e) 選考委員特別賞の創設

第8回（2008年度）に設けられた選考委員特別賞は、「規定の授賞要件には直接該当しないものの、選考委員によって授賞がふさわしいと判断された作品に対して授与するものであり、作品ごとに授賞理由が定められる」としている<sup>20)</sup>。

選考委員特別賞の創設に至る議論は、民間の宿泊施設である「星のや軽井沢」が授賞候補となったことに端を発している。その議論はそのままデザイン賞の授賞対象作品が有すべき公共性の議論となり、民間施設と公共施設のアクセスの制限、維持管理条件の差異などを論点に授賞の是非について話し合われた。結果として、土木的手法によるデザイン性の高さ、当該作品が授賞し土木業界に広く知られることによる土木デザインの発展への寄与などを理由に、選考委員特別賞として選定された。

第9回（2009年度）以降、選考委員特別賞は選定されていない。

### 3. デザイン賞の実績

#### (1) 応募作品数・受賞作品数の推移

第1回（2001年度）から第11回（2011年度）までの応募作品数及び受賞作品数の推移を図-1にまとめた。

年度ごとの変動はあるものの、全体的に応募作品数は減少してきている。

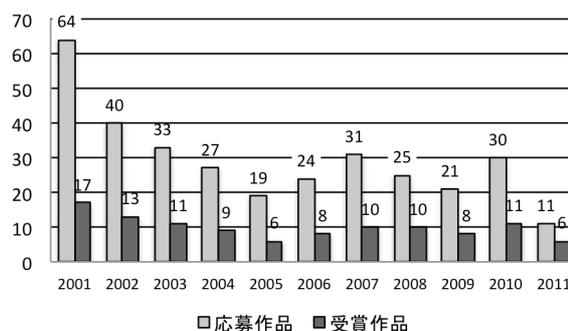


図-1 デザイン賞の応募作品及び受賞作品数の推移

#### (2) 受賞作品の傾向

同じく第1回（2001年度）から第11回（2011年度）までについて、各賞の年度毎の受賞作品数、受賞作品の種別、地域、事業主体別の傾向を整理した（表-2、表-3、表-4、表-5参照）。以上の整理から気づいたことを以下にまとめる。

##### a) 受賞作品の種別について

第1回（2001年度）から第3回（2003年度）までは、作品選集の選考委員長の意見にもあるように<sup>21)</sup>、橋梁の

表-2 各賞の受賞作品数の推移（参考文献4）～14)により筆者作成)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	合計
応募総数	64	40	33	27	19	24	31	25	21	29	14	327
◎最優秀賞	5(8%)	3(8%)	4(12%)	2(7%)	1(5%)	3(13%)	3(10%)	2(8%)	3(14%)	3(10%)	0(0%)	29(9%)
○優秀賞	12(19%)	10(25%)	6(18%)	7(26%)	4(21%)	5(21%)	7(23%)	5(20%)	4(19%)	4(14%)	4(29%)	68(21%)
◇奨励賞	-	-	-	-	-	-	-	2(8%)	1(5%)	3(10%)	2(14%)	8(2%)
★特別賞	-	-	1(3%)	0(0%)	1(5%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(3%)	0(0%)	3(1%)
☆選考委員特別賞	-	-	-	-	-	-	-	1(4%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(0.3%)
授賞作品数の合計	17(27%)	13(33%)	11(33%)	9(33%)	6(32%)	8(33%)	10(32%)	10(40%)	8(38%)	11(38%)	6(43%)	109(33%)

※( )内は各年度又は全体の応募総数に対する割合

表-3 受賞作品の傾向（種別）（参考文献4）～14)により筆者作成)

■種別	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	最優秀◎	優秀○	奨励◇	特別★	選特別☆	計
橋梁	◎◎ ○○ ○○ ○○	◎○ ○○ ○○	◎◎ ◎◎ ◎◎	○○ ○	○	○○	○	○	◎○	◎○	○	8	25	0	0	0	33
道路	◎○	◎	○	○	○							2	4	0	0	0	6
街路・歩道	◎○	○	○	○	○		○		◎			2	5	0	0	0	7
河川		◎○ ○	★	◎○ ○	◎○	○	○○	○	◎	◎◎ ◇	○○	6	11	1	1	0	19
砂防									◇		◇	0	0	2	0	0	2
海岸・港湾	○					◎						1	1	0	0	0	2
ダム	○						◎					1	1	0	0	0	2
駅舎・駅広	○	○○	○	○		○	○	◎◇		○		1	8	1	0	0	10
広場・公園	◎		◎	◎		○	◎	◎○ ○○	○	○	◇	5	5	2	0	0	12
建築						◎					○	1	1	0	0	0	2
ID	○								○			0	2	0	0	0	2
まちづくり				★	◎	◎○ ○	○	○		○○ ★		2	5	1	2	0	10
その他							☆			◇		0	0	1	0	1	2

表-4 受賞作品の傾向（地域）（参考文献4）～14)により筆者作成)

■地域	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	最優秀◎	優秀○	奨励◇	特別★	選特別☆	計
北海道	○	○		○		○	◎○					1	5	0	0	0	6
東北	○	○		○	○	◎	◎	○				2	5	0	0	0	7
関東	◎◎ ○○ ○○	◎○ ○○	◎○ ◎○ ◎○		◎○ ★	○		◇	◎○	◎◎ ○	○○	8	17	1	1	0	27
北陸					○	○		◎◇	○		◇	1	3	2	0	0	6
中部	◎○ ○	○	◎◎	◎◎ ○		◎○	○○	◎○ ☆	◇	○		7	9	1	0	1	18
近畿	○	○		○			○○○	○	○	◇★	○	0	9	1	1	0	11
中国	○	○	◎○ ★				◎○		◎		◇	3	4	1	1	0	9
四国	○	○		○		◎				○		1	4	0	0	0	5
九州	◎◎ ○	◎◎		○○	○	○		○○	◎○	◎○ ◇◇		6	9	2	0	0	17
沖縄	○	○	○									0	3	0	0	0	3

表-5 受賞作品の傾向（事業主体）（参考文献4）～14)により筆者作成)

■事業主体	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	最優秀◎	優秀○	奨励◇	特別★	選特別☆	計
国	○	◎	★◎	○	○○		◎○	○	◎○ ◇	◎	◇	5	7	2	1	0	15
公団	○○ ○	◎○ ○	○	○○		○		○	◎◎	◎○		3	12	0	0	0	15
都道府県	◎◎ ○○	◎○ ○○	○	◎○		◎◎ ○○ ○○	○○ ○○		◎	◎★	○	8	16	0	1	0	25
市町村	◎◎ ○○ ○	○○ ○○	◎◎ ◎◎ ○	◎○ ◎○	◎○ ★	○	◎◎ ○	◎○ ◇	○	○○ ○○	○○	9	23	2	1	0	35
複合		○	○	○	◎	○	◎○	○	◎○	◇◇	○	2	7	2	0	0	11
JR	◎○							○				1	2	0	0	0	3
民間・その他	○		◎					◇☆			◇	1	1	2	0	1	5

応募及び受賞が多く、第11回（2011年度）までの統計で見ても、橋梁への受賞数が33件と、非常に多いことが分かる。橋梁は元々土木構造物の中でも作品性が高かったこと、他の土木構造物と比較してまとまりがあることなどから、応募しやすかったのではないかと考えられる。

また次に多く受賞しているのが河川で、第2回（2002年度）から毎年、最優秀賞又は優秀賞を受賞している。広場・公園も河川同様コンスタントに受賞が多い。

一方、受賞が少ない分野として、道路、街路・歩道、砂防、海岸・港湾、ダムなどが挙げられる。道路、街路などは、計画段階から竣工まで長い時間がかかる場合が多い上に様々な利害調整が多いこと、また、砂防、海岸・港湾などは前提となる外力の影響が大きいことなどから、それぞれデザインの難しい分野であるためと考えられる。

#### b) 受賞作品の地域について

受賞作品の地域としては、関東が多く、北海道、東北、四国が少ないことが分かる。特に北海道は第8回（2008年度）以降、東北は第9回（2009年度）以降、受賞作品が無く、デザイン賞への応募の呼びかけの強化はもとより、北海道、東北における公共事業の土木デザインの今後の取組みについて考えて行く必要があると言える。

#### c) 受賞作品の事業主体について

受賞作品の事業主体としては、市町村、次いで都道府県が多かった。公共事業の数や各事業の規模なども関係すると思われるが、基礎自治体を始めとする地方自治体において比較的土木デザインへの取組みが行われてきている一つの証左とも言える。

## 4. デザイン賞の課題

### (1) はじめに

デザイン賞の設立から11年が経ち、デザイン賞をとりまく社会的背景も変化してきている。その中で応募者はもちろん、運営に携わってきた関係者においても、今後の賞に期待する役割、今後に向けた課題意識等に関する意見が異なる。その中で、今後の賞のあり方を考える上で、図-1に見るような応募者数の低下に加え、それに伴う運営予算の低減、各賞の位置付けの認識など、より議論を深め、解決または改善して行かなければならない事項が浮かび上がってきている。

そこで、景観・デザイン委員会は、その下に2012年7月にデザイン賞の改善案の作成に向けて、検討ワーキングを設置した。検討ワーキングでは、デザイン賞の意義、今後期待される役割、課題、改善案等について、関係各位と意見交換をしながら、中長期的な改善案の提案とそ

れに向けたロードマップの作成、それに基づいた第13回（2013年度）の具体的な改善の提示を目指している。

### (2) 関係者へのヒアリング結果と課題整理

検討ワーキングでは、そのための作業の一環として、2012年8月から準備委員会、現役委員を含めた歴代の選考委員長および委員、応募者等関係者へのヒアリングを始めている。ここでは、執筆時点でのヒアリング結果（準備委員会経験者3名、選考委員長又は選考委員経験者6名、重複有り）から、「デザイン賞の果たしてきた役割」「目指すべき方向や課題」「具体的な改善点と改善策」の3点について整理する。

#### a) デザイン賞の果たしてきた役割・意義

デザイン賞の果たしてきた役割・意義についての意見を以下に整理する。

- ・ 土木業界への土木デザインの意義の明示
- ・ 土木業界としての土木デザインの実績の可視化
- ・ 土木業界で初めての個人を対象とする表彰制度
- ・ 個人のデザイン実績の可視化
- ・ 土木デザインの考え方への新しい示唆  
(例：木野部海岸の最優秀賞受賞)

#### b) 目指すべき方向性や課題

同じく、目指すべき方向性や課題について以下に整理する。

- ・ 土木デザインの規範の提示
- ・ 受賞対象、評価軸に関する考え方の明示
- ・ 賞の位置づけ、受賞後の効用の検討
- ・ 他の表彰制度との差別化
- ・ 応募者数の増加に向けた取組み／応募者のモチベーションの向上
- ・ 広報・PRの充実

#### c) 具体的改善点と改善策

上記の方向性や課題を受けて、具体的改善点と改善策に関する意見について以下に整理する。

- ・ 推薦の仕組みの強化
- ・ 学会誌への掲載の充実、一般誌への掲載
- ・ 他分野（建築学会、造園学会等）の運営制度、表彰制度の社会的位置付けの定着過程の把握
- ・ 賞の位置付けの確認と、設置要項、顕彰対象の規定等に向けた議論
- ・ 運営費の捻出に向けた仕組みづくり

## 5. まとめ

本稿では、デザイン賞の概要について述べ、デザイン賞の実績として、第1回（2001年度）から第11回（2011

年度)までの、応募状況、受賞作品の特徴等についてその概略を述べた。

また、現在のデザイン賞の課題と今後に向けた議論のための整理として、関係者にヒアリングを行った結果についてまとめた。

今後は検討ワーキングとして、引き続きデザイン賞の改善に向けた議論を進めていく。

**謝辞：**検討ワーキングの活動、および本稿の執筆にあたり、準備委員会、選考委員の経験者の方々をはじめ、多くの方にご協力を頂いた。ここに記して感謝します。

## 参考文献

- 1) 土木学会デザイン賞の設立経緯などについては以下を参照、福井恒明・岡田智秀：土木学会デザイン賞の創設とこれまでの経過、景観・デザイン研究講演集、No.1, pp. 271-275, 土木学会, 2005. 12
- 2) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2011, pp. 4-5, 土木学会, 2012. 2
- 3) 同2)
- 4) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2001, 土木学会, 2002. 1
- 5) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2002, 土木学会, 2003. 5
- 6) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2003, 土木学会, 2004. 5
- 7) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2004, 土木学会, 2005. 6
- 8) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2005, 土木学会, 2006. 5
- 9) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2006, 土木学会, 2007. 5
- 10) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2007, 土木学会, 2008. 5
- 11) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2008, 土木学会, 2009. 4
- 12) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2009, 土木学会, 2010. 2
- 13) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2010, 土木学会, 2011. 2
- 14) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2011, 土木学会, 2012. 2
- 15) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2003, pp. 4-5, 土木学会, 2004. 5
- 16) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2006, p. 4, 土木学会, 2007. 5
- 17) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2008, p. 8, 土木学会, 2009. 4
- 18) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2009, p. 8, 土木学会, 2010. 2
- 19) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2010, p. 8, 土木学会, 2011. 2
- 20) 土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2008, 土木学会, 2009. 4
- 21) 例えば、土木学会デザイン賞選考小委員会編：作品選集2003, p. 4, 土木学会, 2004. 5